

一緒にしましょう コミュニティづくりを!

中野ふくし倶楽部通信

「中野ふくし倶楽部」は、主に中野区に暮らす人々の福祉の向上と子どもたちの豊かな育ちに貢献することを目的としています。

NPO 法人 中野ふくし倶楽部
発行責任者 田中芳樹
中野区中央 4-53-7 YHNビル 101
TEL 03-3384-5616
<http://www.nfcaozora.org/>

ひとりの命も大切にできない社会は 弱くもろい 津久井やまゆり園事件を考える

9月30日 学習と交流の連続講座

不自由な体を押し、一時間余のお話を頂いた家平さんに心から感謝いたします。

事件の報道に接したとき、誰もが大きなショックを覚えたことでしょう。とりわけ容疑者が施設の元職員であったこと、「重度障害者は生きている価値はない」と公言してはばからなかった態度に、いっそうの驚きを重ねることになりました。

この事件の重大さはもちろんですが、実はその背景には、今も日本社会に横たわっている障害者をめぐる様々な問題があることを、家平さんは解きあかしてくれました。虐待の実態、施設職員の労働条件の驚くべき悪さ、障害者がおかれている経済的困難、家族や地域に今もある偏見と差別、そして国、自治体の行政の問題点…等々、身近に障害者と接する機会の少ない人にとってはこれもまたショッキングなことでした。

容疑者が「ヒトラーが降りてきた」と言ったように、優生思想の典型的な例としてナチスドイツの「T4作戦」がありました。20 万人の精神障害者が犠牲になったと言います。

一方、現在のヨーロッパでは障害者への見方は日本と全く逆です。「障害のある人はない人と同じような生活を送っていると思う」と答えた人はドイツでは 82%、日本では 19%。アメリカでは「バリアフリー」より「ノーマライゼーション」という言葉の方が一般的であることなど、日本社会の遅れた側面が浮き彫りになりました。

こうした中で私たちは何をなせばよいのか、なすことができるのかを考えさせられました。事件をきっかけに防犯や管理体制の強化、措置入院の見直しなどを行政は問題にしますが、背景にある障害者を取りまく環境を

家平 悟 さん



障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会 事務局次長
NPO法人日本障害者センター 事務局長

変えない限り問題は解決しないことを、家平さんは力説しました。「障害者を大切にしない社会、ひとりの命も大切にできない社会は弱くもろい」、という訴えが、ずっしりと心に落ちました。

17 人の参加者の方々が、それぞれの感想と思いを語ってくれました。憲法が保障するはずの健康で文化的な最低限度の生活を保障するための運動を、地道にすすめることこそ求められています。高齢者や子どもの問題も同様です。それに逆行する介護保険の大改悪が今すすめられようとしていることも大問題です。

30 年前は、障害者が駅のエレベーターを作してほしいと訴えたら、「障害者のために何億円もかけて作るのか」という反論があった時代でした。しかし今では私たちは当たり前前に駅のエレベーターを使っています。ゆっくりではありますが、社会は確実に前へ進んでいます。

今回のような交流の場、連携の場を無数に作っていくことこそ問題の解決への一歩であることを痛感した学習会でした。

中野ふくし倶楽部日誌

- 6月19日 連続講座 中島三千男先生
「今を生きるあなたへのメッセージ」
中野ふくし倶楽部第18期定期総会
第1回理事会
- 7月17日 第2回理事会
- 8月21日 第3回理事会
- 8月26日 あおぞら暑気払い
- 9月23日 第4回理事会
- 9月25日 あおぞら日帰り旅行
- 9月30日 連続講座 「やまゆり園事件を考える」



政務活動費、中野区では 1円からの領収書添付の波紋

市民オンブズパーソン中野 山崎 由紀子

「せこい!」「ずさん!」「何考えてる!」号泣会見で「政務活動費」が世に知れ、今また富山市議に見られる使い方が批判的になっています。

中野区では数年前から「市民オンブズパーソン中野」が情報公開を請求し、政務活動費をチェックしています。昨年度からは、1円からの領収書添付が義務づけられました(それまでは1万円以下添付義務なし)。そのおかげで約1200枚だった閲覧書類は5000枚を超す量に増え、全てをコピーすることは経済的にも難しくなりました。そこで、まず閲覧し必要なものだけをコピーすることにしました。以下閲覧したオンブズパーソンの声。

「初めて見たものは山のようなタクシーの領収書。新中野から中野坂上、ですって! 歩くか地下鉄でいいのでは!」「町会や商店会でお呼びした飲食を伴う新年会の会費も全て税金!」「食事代一総額を件数で割ると1000円以下、意外と質素」「スイカチャージ1万円! 今スイカで何でも買える!(会派によって昨年は自粛)」「新聞代もコンビニで買ったもの、自宅に届くもの、全てOK。電話代、私用も税金?」「1番大きな出費は区政報告です。1年間で150万円を超える方もいます。新聞の折り込み代も高額ですからお手元に届いたら大事にお読み下さい。」「1円も使っていない区議さんもいます。」

短時間での閲覧では、見落としもあり、領収書と実際をすべて照らし合わせることもできません。でもしっかり監視している人がいる! ということを知らせることで、自浄作用が働く事を期待しています。問題があるものについては、これから監査請求の手続きにはいります。



今年の年の瀬も 最高の気分で!

ジャズ&ディナー2016 受付中!

12月16日(金)午後6時30分 start
中野サンプラザ14F

先着100名様 会費:お一人様10000円
お申込みは
TEL 03-3384-5616
FAX 03-3384-5617
Mail info@nfcaozora.org
振込先:ゆうちょ銀行10150-62535571
特定非営利法人中野ふくし倶楽部



お元気ですか?

理事長 大畑 きぬ代

1978年、イタリアではバザーリア法によって精神病院が廃止され、精神疾患のある市民は精神病院から街に出た。「自由こそが治療だ(liberta'e'terapeutico)」のスローガンとともに。

病院で暮らし続けてきた元患者がいきなり街へ出された戸惑いとともに、それを受け入れる地域社会の労苦はいかばかりだっただろう。

イタリア映画「人生、ここにあり」は1983年のミラノが舞台。労働組合活動家が革新的な考え故に疎まれ、精神病院から出てきた元患者で作る「協同組合」に左遷され、そこで人間として彼らに向き合うために奮闘する、という物語。

この挑戦の先陣を切った人口23万人のトリエステを訪ねたことがある。今日の日本社会を思うと、市民が元患者を受け入れていることに励まされる。バスの中で普通に話しかけられ、ちょっとドキッとしたことがあったけれど、弱きものが普通に暮らせる社会が求められている。

17年前、ヘルパー講座初回で見た映画「レナードの朝」を思い出した。

※「レナードの朝」(Yahoo!映画より):
オリヴァー・サックスの実話を基に、治療不能の難病に挑む医師の奮闘を、一人の重症患者との交流を軸に描いた感動のヒューマン・ドラマ。30年間昏睡状態だった男レナードが、奇跡的に意識を回復した。セイヤー博士の治療が功を奏したのだ。博士はその治療を、他の患者にも適用してめざましい効果をあげるが……。監督:ペニー・マーシャル

子どもの居場所 友・ゆう・YOU

塾には行っていないけど、都立高校に合格したい
そんな願いをサポートします

連絡先:080-3919-0489(大畑)

男子が加わりました。サッカーのクラブチームに入っているH君です。寡黙で地道にコツコツと勉強に取り組んでいる姿は可愛い中学生です。それぞれの「居場所」になっています。オープンして2年目に入ります。多くの支えに感謝!

チャイルドライン中野の活動

	着信数	うち話ができた
5月	224	49
6月	190	46
7月	281	36
8月	180	35
9月	313	48

「虐待を受けている」「自信がない」「友達がいじめを受けている」など深刻な問題を抱えた子どもの姿が電話を通して見えてくる。数は決して多くはないが、この世に生を受けた以上、幸せな子ども期を生きる権利を保障する責任が大人にはある。